

受付番号	385
------	-----

倫理審査申請書(臨床研究)

平成 30 年 6 月 25 日

岐阜県総合医療センター
院長 滝谷 博志 様

申請者 所属 小児療育内科
職名 部長
氏名 長澤宏幸



岐阜県総合医療センター倫理委員会手順書第 3 条に基づき、下記のとおり申請します。

記

診療等の名称	施設内の照度変化の実態把握			
代表者名	所属	小児療育内科	氏名	長澤宏幸
共同診療者名	所属	岐阜工業高等専門学校	氏名	青木 哲
診療等の概要 (実施計画書を添付のこと)	目的 1年間にわたり「すこやか」での照度を調査したデータを元に季節による照度の変化を調査し、環境改善の資料とする。 方法 病棟内の照度変化を専用のロガーを用いて測定 別紙参照			
診療等の対象、実施場所及び実施希望年月日 1 調査対象患者 直接患者について検査、調査するものではない 2 症例件数 0 例 3 実施手順 調査実施場所は、すこやか3階病棟。具体的位置はベッドサイド。 4 調査期間 平成30年6月～平成32年3月 5 患者の同意方法 該当しない 6 調査項目 別紙参照				

(注) 1 受付番号欄は記載しないこと。
2 紙面が足りない場合は別紙に記載する。

「重症心身障がい児施設すこやか」における室内照度変化の実態把握

岐阜高専・建築学科 青木哲

1. 研究背景と目的

2016年度には、すこやか内の照明環境を把握し、特に照明直下の輝度・照度について測定・検討した。その結果、立位のスタッフには気にならないものの、ほぼ仰臥で生活する障がい児にとっては、照明の光を直接感じることになり、療育環境での照明配置に対して考慮が必要であることを問題提起した。

一方、2017年度には、豊かな療育環境を目指して、季節変化に着目し、温湿度変動や音環境についても調査を行っている。

照度と季節変化との関連性については、建物の人工照明のみを使った場合にはあまり影響がないと考えられるが、開口部（窓）がある部屋では、外からの日照、すなわち昼光照明によっても大きく影響を受ける。

昼夜の明暗環境の変化で、生体リズムを調整していることは広く知られており¹⁾、サーカディアンリズムが日照時間に応じて、季節を読み取る仕組みも解明されつつあり²⁾、障がい児が浴びる光の状況を把握し、場合によってはその調整により、より季節感のある療育環境を演出できる可能性がある。

そこで、主に病室を中心に、子供周辺の照度を長期測定し、昼光照明および人工照明をあわせた光をどの程度、どの時間浴びるかの実態把握を行うものである。

2. 研究方法と期間

これまで使用していた温湿度ロガーに照度センサがついたタイプ（TandD社、TR-74Ui）を使用する（図1）。病室のベッド近くに設置し、照度（lx）を10分間隔で、夏至（6月下旬）～冬至（12月下旬）の期間、測定する。なお、温湿度もあわせて記録される。主に、照度の日変化や季節変化、部屋配置による照度の相違について実態を把握することを目的とする。



図1 測定装置 (TR-74 Ui)

参考文献

- 1) 大川匡子：光の治療的応用，光資源を活用し想像する科学技術の振興，文部科学省，2007
- 2) 概日時計が季節を読み取る仕組みを発見，理化学研究所ニュースリリース，2015

3. 測定方法

「重症心身障がい児施設すこやか」内の主に児童が生活する施設の温度・湿度を測定する（図1）
計測場所：4カ所（図書遊戯室、リハビリルーム・下駄箱、305号室、301号室）

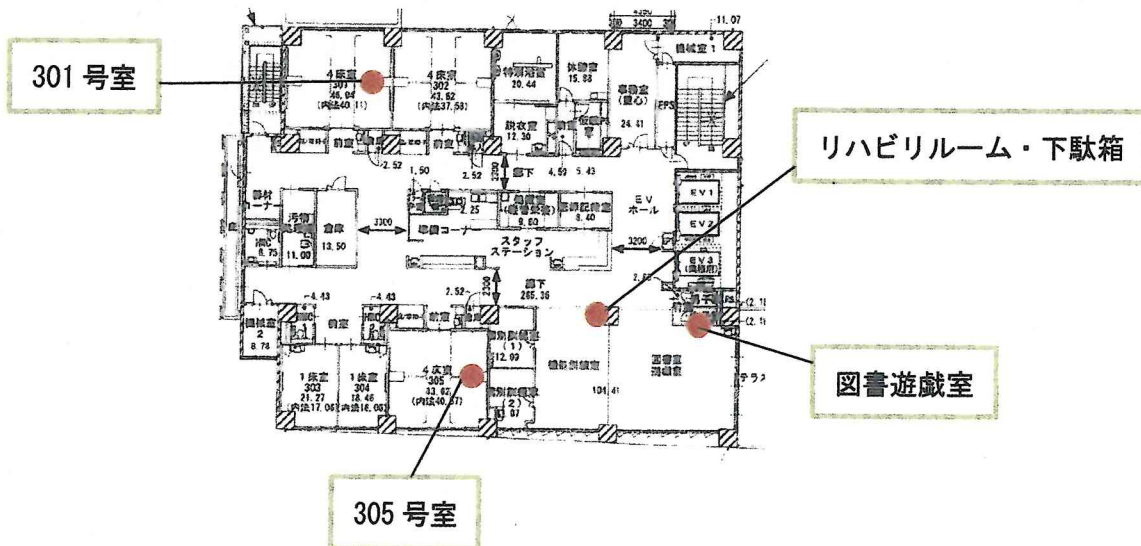


図1 測定場所

測定方法：温度湿度データロガー（T AND D社 TR-72U）を設置する。（図2）
大きさは5cm×8cmほどである。